

平成26年度事業報告

公益財団法人 北九州活性化協議会

目 次

I. 概 況	P4
II. 公益目的事業		
1. 環境を未来に引き継ぐ事業	P5
1) 「もったいない総研」の再編にかかる企画研究事業		
2) 環境未来都市構築支援事業		
2. 産業人材を育成する事業		
1) 北九州産業人材育成フォーラム事業		
(1) 高度人材育成プログラム事業の企画、運営		
(2) 社会人育成プログラム事業の企画、運営		
(3) 青少年育成プログラム事業の企画、研究		
(4) 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備		
3. 次世代を担う人材を育成する事業	P7
1) 「北九州の企業人による小学校応援団」事業		
(1) 支援事業の推進		
(2) 支援体制の整備		
4. 都市格(文化力・教育力)を向上する事業	P9
1) 「1000人の夢寄金」事業		
(1) 「1000人の夢寄金」募金事業		
(2) 「1000人の夢寄金」助成事業		
(3) 広報・プロモーション事業の実施		
2) その他関連事業		
(1) 北九州ミュージックプロムナードの支援		
5. まちづくり推進事業	P11
1) まちづくり事業		
(1) まちづくりの調査研究事業		
(2) ABLEサロンの開催		
(3) 情報受発信の強化		
2) 地域づくりネットワークの推進		
(1) 北九州地域経済団体連携フォーラム事業の運営		
(2) 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画		
(3) 地域づくりネットワークへの参画		
6. 北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業	P12
1) 教育普及に関する事業の企画、運営		
(1) イノベーションフォーラムの開催		

- (2) 技術革新講座の開催
- (3) ものづくり講座の開催
- (4) デザイン講座の開催
- 2) 調査研究に関する事業の企画、運営
 - (1) 「北九州における表面処理技術の歴史と発展」の調査・研究
 - (2) 「北九州における設備診断技術の歴史と発展」の調査・研究
 - (3) 「液晶ディスプレイ技術の系統化調査」の調査・研究
 - (4) 「マイスターによる効果的な技術指導 ～手溶接作業～」の調査・研究
 - (5) 「山川健次郎と藤田哲也」の調査・研究
- 3) 企画展示に関する事業の企画、運営
- 4) 映像・図書収集及び公開に関する事業の企画、運営
 - (1) 図書の購入
 - (2) 映像の制作

III. 法人運營業務

1. 会員募集と会員サービスの向上 P17

- 1) 会員募集の強化
 - (1) 賛助会員制度の改正と会員データの整理の実施
 - (2) 新規会員募集の実施
- 2) 会員サービスの向上

2. 寄付事業の推進

3. 地域連携促進事業の推進

- 1) 「スポーツ振興チケット」事業

4. 新規指定管理事業の検討

5. 組織運営体制の強化

- 1) 事業管理体制の整備
- 2) 事務局運営体制の強化

6. 経営改善対策の実施 P18

- 1) 資金運用計画による資金管理の実施
- 2) 事業の運営システムの改善による合理化実施

7. 会議等の開催

- 1) 評議員選定委員会の開催
- 2) 評議委員会の開催
- 3) 理事会の開催
- 4) 執行役員会議の開催

I. 概況

平成26年度の我が国経済は、「大胆な金融政策」、「機動的な財政政策」、「民間投資を喚起する成長戦略」の「三本の矢」の一体的推進により、緩やかな回復基調が続いているものの、消費税率上げや輸入物価の上昇などの影響で、個人消費等の活性はいまだ道半ばと言った感がある。

こうした状況の下、人口急減・超高齢化という我が国が直面する大きな課題に対し政府一体となって取り組み、地方圏がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生できるよう、「まち・ひと・しごと創生戦略」がまとめられた。

また、産業界においては、中国の比較優位の低下や円安による国内生産の優位性回復等の新しい環境条件のもとに、製造業の国内生産回帰の流れや開発型生産拠点の形成等の新しい経済環境も生まれた。

北九州地域においても、国内生産拠点の形成を踏まえた工場建設の動きや、事業継続計画(Business Ccontinuity Plan)視点での機能拠点誘致など、北九州の特性とポテンシャルを活かした新しい新成長戦略の推進が、地域創生戦略と呼応して本格的な段階に入ってきた。

地域創生戦略は、地域の特性に即した地域課題の解決が基本的な視点であり、産学連携、協働による推進が強く求められている。

こうした環境下、平成26年度 KPEC の事業経営は、地域企業を中心とする産学官各分野の理解と強い支援を得て、事業計画の推進と経営体質の改善・強化を進め、概ね年度計画を達成した。

KPEC全体としての経営管理については、懸案であった財務体質改善に向けた事業総括を行うと共に、資金運用効率の向上対策及びKIGSの合理化等を進め、収支バランスの改善を達成することが出来た。

各事業の運営については、地方創生戦略を先行実施する「産業人材育成フォーラム事業」始め、モデル校を倍増し事業拡充を図った「小学校応援団事業」及び「1000人の夢寄金事業」を中心に、新しい北九州の活性化のためのソーシャルキャピタルの形成に向け、環境づくりを実施した。また、「もったいない総研事業」は、実施事業の総括と中長期的な視点に立った事業の再構築について検討を行い、今後に向けた環境整備を行った。

指定管理事業である北九州イノベーションギャラリー(KIGS)の管理、運営については、第2期指定管理の最終年度としての総括を行うと共に、新たに管理・運営体制の整備を行い、H27年度以降5年間の第3期指定管理受託を決定した。

平成26年度の各事業の実施状況は以下のとおりである。

II. 公益目的事業

1. 環境を未来に引き継ぐ事業

1) 「もったいない総研」の再編にかかる企画研究事業

「新もったいない総研事業検討準備委員会」を設置し、日本独特の生活概念である「もったいない」の意味を問い、地域づくりへの活用の方途を研究した。

27年度からは、北九州市の各経済団体や有識者による「もったいない総研事業検討会」を立ち上げ、「もったいない精神(こころ)」の醸成と合わせて、環境(産業経済・社会生活)や産業文化遺産の保全等までを含む広い範囲を想定し、次世代に継承していくべき事業の企画、研究を行う。

2) 環境未来都市構築支援事業

(1) 「エコッパー」のブランディング及び普及にかかる企画・研究の実施

KPECが開発した北九州紙「エコッパー」のブランディングと普及のために、北九州市と大分製紙(株)とで検討を行い、「エコッパー」と北九州市の環境マスコットキャラクターである「ていたん」を組み合わせた「ていたんプリント エコッパー」を企画・開発した。

27年度早々に北九州市長による報道発表を行い、普及促進に取り組む。

(2) 子供の環境教育支援事業

大分製紙より「エコッパー」1パック販売につき1円の寄付金を、PTA協議会による「もったいない」作文の表彰資金として運用してきたが、PTA協議会の事業終了を踏まえて、27年度からは、「1000人の夢寄金」事業への寄付として大分製紙(株)と合意した。

2. 産業人材を育成する事業

1) 北九州産業人材育成フォーラム事業

地域の中堅・中小企業の経営力強化と産業人材の育成をすることを目的に「北九州地域産業人材育成フォーラム」を編成し、産学官協働による産業人材育成事業を企画・実施した。

(1) 高度人材育成プログラム事業の企画、運営

① 地域連携型インターンシップ事業の開発・実施

i) 対象企業数 : 199社 (実施企業数 : 122社、実施率: 61%)

ii) 参加状況 : 学生数;137名(187名)、企業数;82社(92社) ()は登録数

② インターンシップの実践的活用事業の開発、事業化実施

i) インターンシップミーティングの企画、開催

インターンシップに対する学生の不安解消のための事前相談を目的に、連携校合同のインターンシップ参加促進事業を実施した。

ii) 大学別インターンシップセミナーの拡充実施

フォーラム事業と体系化した各大学別インターンシップセミナー等を実施した。

iii) 「学生のための北九州企業発見ツアー」の実施

北九州商工会議所が推進する産業観光事業とインターンシップと連携して企業見学ツアー事業を実施した。))

③ 「地域連携型インターンシップガイドCD(改訂版)」の作成

インターンシップ関連情報のデータベース化を推進し、企業勧誘ツールとして「インターンシップ事業」のガイドCD-ROMを作成、配布した。

(2) 社会人育成プログラム事業の企画、運営

「社会人プログラム開発プロジェクト」を編成し、中堅・中小企業の中核専門人材及び経営管理人材の育成、リカレントを目的に、地域大学の制度・環境を活用した「社会人向け人材育成プログラム」の開発及び事業化を実施した。

① 中堅・中小企業の中核専門人材育成に向けた環境開発

i) 北九州ドクターチャレンジプログラムの活用促進事業の実施

中核専門技術者のリカレント・スキルアップの手段として、九州工業大学の社会人プログラムの活用促進のための広報を実施した。

ii) 北九州テクニカルカレッジ事業(仮称)の企画、実施

中堅技術者の技術力向上を目的とした出前講義プログラムを、中小企業3企業で試行し、本格的実施に向けた課題抽出と事業化のための改革づくりを行った。

(実施企業：マツシマメジャテック・東洋電機工業所・アイム電機工作所)

② 中堅・中小企業の「経営人材育成」に向けた環境開発

「MBA活用プログラム研究プロジェクト」を編成し、北九州市立大学大学院マネジメント研究科と連携した経営人材育成のための事業の企画・開発を行った。

i) 「MBAサテライトフォーラム2014」及び連携講座の実施

北九州市立大学大学院KPEC2BSと連携し、公開経営講演会・パネルディスカッションを実施すると共に、中小企業基盤整備機構(中小企業大学校 直方校)と連携した連携講座を実施した。

・参加者数：フォーラム:118人、連携講座:15名

ii) MBAホルダーによる白熱講座の企画編成

MBAを保有する中小企業経営者(6名)による、大学生のための実践型キャリア形成講座を北九州市立大学で実施し、受講学生のレポート分析を踏まえてカリキュラム創りを実施した。

iii) 産業人材育成フォーラム車座経営者育成塾の企画開発

フォーラムの実践的経営研究事業として、「経営継承」をテーマとしたケーススタディ事業を企画し、平成27年度事業実施を目指す。

(3) 青少年育成プログラム事業の企画、研究

「青少年プログラム研究プロジェクト」を編成し、小学生、中学生を対象にした早期工学教育(ものづくり教育・キャリア教育)の実施環境調査を実施し、青少年育成プログラムの事業化のためのフレームワークを実施した。

① 早期工学教育の実態調査と事業化研究の実施

i) 早期工学教育実施状況の調査の実施

早期工学教育に関する先進地事例の調査を実施すると共に、北九州におけるものづくり教育の実態把握を目的としたアンケート調査を実施するための環境づくりを行った。

ii) 北九州地域の工学教育関連機関の事業集約とデータ化の実施

北九州の教育関連機関が実施する早期工学教育事業の体系的整理と専門情報資料として活用するための企画・設計を実施した。

② 藤田哲也博士をコンテンツにした青少年特別プログラムの企画・研究

i) 藤田哲也博士をコンテンツにした道徳授業カリキュラムの作成

藤田哲也博士の偉業と生涯を、小学校の教育課程に反映させるための環境づくりを行い、H27年度の教育スタンダード(理科-天気と情報)に藤田哲也博士の紹介と指導要領を記載

することとなった。

ii) 藤田哲也博士展の企画、開催

北九州イノベーションギャラリーと連携して、「トルネード博士・藤田哲也展」を企画、開催すると共に、本展開催後、巡回展を実施した。

(4) 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備

① 九工大北九州地域企業学内説明会の実施

平成25年度に続き、フォーラム事業の対象企業への就職機会創出を目的に学内企業説明会を開催した。当該企業への就職決定数は3名(H25年度11名)であった。

② 「産業人材育成セミナー&産学交流会」の開催

産業人材育成フォーラム事業への参画と大学関係者と企業経営者の顔の見える交流を促進するためのインセンティブ事業を実施した。

- ・ 産業人材育成セミナー :参加者数 : 182人(大学 : 40名、一般152名)
- ・ 顔の見える産学交流会 :参加者数 : 100人(大学 : 35名、一般65名)

③ 「北九州産業人材育成フォーラム」ホームページの運用

フォーラムのホームページを活用して、産業人材育成フォーラム関連情報を集約発信すると共に、産業人材育成に関する関係機関の情報等の集約を行い、産業人材関連情報のソリューション機能向上を図った。

④ 各種関連調査及び統計の実施

フォーラム事業の実施評価及び関連事項のトレーサビリティの確保のために、インターンシップ関係、就職関係等、フォーラム事業に関連する各種調査及び統計の整備を開始した。

⑤ 外部関係機関等への広報等の実施

日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センター等の関係機関の調査対応及び九州工学会産学交流会等の外部機関等へのフォーラム事業の広報を実施した。

3. 次世代を担う人材を育成する事業

1) 「北九州の企業人による小学校応援団」事業

「北九州市立小学校への教育支援に関する協定書(平成25年4月1日)」に基づき、(公財)北九州活性化協議会及び市教育委員会及びPTA協議会等と協働して、北九州地域の有志企業が参加する「北九州の企業人による小学校応援団」事業を企画・実施した。

(1) 支援事業の推進

① 支援対象校の拡大

年次目標に基づき、支援対象校を13校(25年度)から40校に拡大。対象校選定は、教育委員会に依頼した。

※[年次目標] 26年度40校、27年度70校、28年度100校、29年度130校

② 支援事業の継続実施

- i) 40校から寄せられた支援事業活用計画についてヒアリングを行い、企業等の協力を得て、講師派遣と見学受け入れを実施。対象校の拡大に伴い、実施件数は49件(25年度)から114件に大幅に増加した。
- ii) 市教育センターの10年次教諭体験研修(夏休み3日間)に協力し、6人を受け入れた。
協力企業:西鉄バス北九州(2人)、井筒屋(2人)、JR九州(1人)、山九(1人)

③ 「PTAの日」に対する協力など企業従業員のPTA活動参加促進

- i) 児童の保護者である企業従業員のPTA活動参加・役員就任の促進を図るため、PTA協議会、小学校校長会、教育委員会と連携して、四者連名で小学校応援団参加企業に対し、「PTAの日」(各小学校の4月のPTA総会開催日)への従業員の参加協力を要請した。事後にPTA協議会が全130校の校長及びPTA会長を対象に行ったアンケート調査の結果では、「保護者の参加が例年より多かった」と回答した学校が全体の60%強あり、初めての全市的な取り組みとしては、一定の成果が得られた。
- ii) 「学校開放週間(10月～11月)」及び「第2回明日の子どもを育てるフェスティバル(11月)」についても、四者連名で小学校応援団参加企業へ従業員の参加協力を要請した。

④ 企業等の支援情報リスト(支援メニュー)及び講師情報の蓄積

- i) 学校の支援ニーズに対応するため、企業等の協力を得て、講師派遣、見学受け入れ等の支援情報リストを作成・蓄積。リストの件数は51件(25年度は46件)となった。
- ii) 経営者や専門家など講師の人材情報の収集に取り組み、24人(個人及び団体)の講師をリスト化した。

⑤ 広報、プロモーションの推進

小学校応援団の取り組みに対する企業や市民団体、教育関係者等の理解を深め、協力の輪を広げるため、リーフレットやKPECのホームページを活用した広報活動を行った。なお、市政だより2014年11月15日号の特集「子どもの未来をひらく教育プラン(改訂)」の中で、小学校応援団の取り組みがとり上げられた。また、同号で「第2回明日の子どもを育てるフェスティバル」の開催が紹介された。

(2) 支援体制の整備

① 参加企業等の増強

小学校応援団参加企業等の増強に取り組み、参加企業等の数は、8経済団体・224社となった。(25年度は8経済団体・201社)

② 学校担当コーディネーターの配置

支援対象校の拡大に対応し、各学校が企業の支援を的確に活用できるよう、必要な調整・サポート業務を行うコーディネーターを10人配置(1人平均4校担当)。コーディネーターの人材の確保については、シニアネット北九州及び夢追いバンク(いずれもNPO)の協力を得た。各コーディネーターは、担当校の支援事業活用計画のヒアリング、進捗管理、出前授業等の参観講師情報のリサーチ等の業務を行っている。

③ 予算の一本化

従来、事業予算は小学校応援団予算と教育委員会の直接執行予算との二本立てであったが、26年度から財源全額を教育委員会とKPECの負担金による小学校応援団予算に一本化した。これにより、事業運営の効率化・弾力化が図られた。

④ 三者調整会議の定期的開催

支援事業の円滑な推進を図るため、北九州市立小学校の教育支援に関する協定書(25年4月1日締結)に基づき、教育委員会及びKPECとの三者調整会議を定期的に開催。また、「PTAの日」の取り組みについては、PTA協議会を加え四者で協議・調整を行った。

4. 都市格(教育力・文化力)を向上する事業

1) 「1000人の夢寄金」事業

都市格(文化力・教育力)の向上を図ることを目的として、教育および文化分野における市民活動へ助成する「1000人の夢寄金」事業を実施し、第3回助成事業を行った。

(1) 「1000人の夢寄金」募金事業

① 1000人委員会の編成

「市民の気持ちを集めみんなの力でこのまちの教育・文化活動を支援する」ことを目的に、1口3,000円(年額)の寄付者による「1000人委員会」を組織し、寄付事業を展開する体制づくりを行った。

② 寄付金募集

「1000人の夢寄金」第三期(平成26年4月から平成27年3月まで)の寄付金募集を実施した。

- ・総会員数 : 433件(法人会員133件、個人会員300件)
- ・寄付金額 : 総額2,003,111円(累計5,764,053円)

③ 寄付金受け入れ体制の運営

i) 寄付金優遇税制を活用できる体制の構築

公益財団法人の特例要件を生かし福岡県より税額控除に係る証明を取得し、寄付金控除に対応できる体制を整えた。

ii) 寄付金受け入れ体制の維持

個人からの寄付に対して、専用郵便口座開設とあわせて専用振込用紙を制作し対応している。また、クレジットカードによる寄付システムを運用中。

iii) 大口寄付金受入れ体制の構築

通常の基本的な寄付以外に香典返し、バザー売上、その他大口寄付金の受入れ体制を構築した。

④ 寄付金受入れ方法の多様化

i) 企業・団体寄付

- ・公益財団法人小倉法人会より寄付金受入れ(寄付金額: 50,000円)

ii) 第2回1000人の夢寄金・チャリティーゴルフコンペを開催

- ・日時 : 平成26年11月25日(火)(場所:九州ゴルフ倶楽部八幡コース)
- ・参加者 : 88名(当日寄付金額: 264,000円)

(2) 「1000人の夢寄金」助成事業

① 1000人の夢寄金審査委員会の継続運営

1000人の夢寄金の趣旨に沿って公正、公平、公明性を持った審査を行うため、7名の審査員構成する審査委員会を運営するとともに、審査委員会運営規定に規定する審査方法および審査基準に則り、厳正な審査体制を維持した。

② 助成先団体の募集と選定

平成26年10月から平成27年9月までの事業実施を対象として、平成26年7月15日より7月31日の間、第3回助成先の募集を行った。10件の応募について、審査委員会の審査を経て下記8事業を採択し、1,500,000円を助成金に充当した。

【第3回助成先】

助成先団体名	事業名	事業概要
劇団「青春座」	松本清張・原作 「わるいやつら」 演劇公演	松本清張・原作「わるいやつら」演劇公演。創業69年を誇る北九州市民劇団。本公演を成功させ、来年の創立70周年につなげる。
九工大トマトロボット競技 実行委員会	ロボットによる トマト摘果競技会開催	九工大、社会ロボット具現化センターによるトマト摘果競技会。北九州市を新しい農業用ロボットの発信都市とする。
NPO法人 ドッグセラピージャパン	動物愛護週間イベント	動物介在活動 Animal Assisted Activity により、保育園、幼稚園、小学校児童の情操教育や特養訪問により高齢者に対するドッグセラピー活動を実施する。道徳観やモラルの育成を図り、都市格の向上を目指す。
ひまわり実行 委員会	「10周年記念事業」 開催	10周年事業として「ひまわりを咲かせよう」絵画展を実施する。2015年2月北九州市立美術館本館市民ギャラリーにて絵画展を開催する。
北九州 しねま研究会	「第5回北九州市民 映画祭」開催	第5回北九州市民映画祭開催。
PIKO・POKO・CLUB	「カタリバ」 リーダー養成研修	キャリア教育プログラム「カタリバ」実施。地元大学の大学生によるコアスタッフ、プロジェクトマネージャーを養成する。
北九州インスタレーション プロジェクト実行委員会	BUILDING DIGNITY」 展の開催	歴史的な街並みや北九州の発展を象徴する重要な建築物に於いて展覧会を開催することで、都市や建築の魅力を再発見する。
ひびきの親子 あそび研究会	「市民の学び舎」計画	ひびきの地域で乳幼児親子を対象とする子育て支援活動を実施する。「市民が集い市民と学ぶ、地域と学び育つ未来の市民の学び舎計画」平成26年度後半は北九州市立大学のキャンパス内に拠点を移し、毎月定期開催する。

③ 助成回数の変更

平成26年度より年2回だった助成回数を年1回10月助成に変更し、当面の寄金財務の安定を図ることとした。

(3) 広報・プロモーション事業の実施

① 広報ツールの作成及び広報の実施

i) 「1000人の夢寄金」ホームページ及び Facebook の活用

専用ホームページおよびface bookによる広報を実施した。助成先各事業のトピックスをタイムリーに掲載・発信した。

ii) メーリングリストの活用

メーリングリストの登録を進め、1000人の夢寄金メルマガ配信先の増加に努めた。

(平成27年3月末登録先156件)

② 年度報告書の作成

2013年度[平成25年度]1000人の夢寄金事業報告を作成し、平成26年5月日までに全寄付金先(410件)に対し発送した。

2) その他関連事業

(1) 北九州ミュージックプロムナードの支援

北九州活性化協議会が企画し平成8年に開始した市民参加・手作り型の軽音楽フェスティバル「北九州ミュージックプロムナード」において、実行委員会(委員長;中野副理事長)へ参画し、事業企画の調整を行った(「北九州ミュージックプロムナード2014」は19回目)。

- ・ 開催期間 :平成26年8月10日(日)~10月26日(日)
- ・ 参加者数 :15,936名

5. まちづくり推進事業

1) まちづくり事業

(1) まちづくりの調査研究事業

「もったいない総研」事業の再検討を中心として、研究会を編成し、KPECの運営目的を踏まえた地域活性化に資する新事業の在り方等について研究を行った。

(2) ABLEサロンの開催

ABLEサロンについては、事業の再検討をすることとし計画事業を中止した。

(3) 情報受発信の強化

① KPECニュースの発行

機関紙「KPECニュース」を発刊し、会員企業および関係団体に配布した。

(VOL. 59、平成26年5月、発行部数:2,000部)

② KPECパンフレットの発行

KPEC設立25周年を機に、設立経緯、これまでの活動実績、現在の活動内容をまとめたパンフレットを作成した。(発行部数:2,000部)

賛助会員募集や企業・団体訪問時に活用している。

③ ホームページの運営

KPEC本体及び4事業のホームページを設置し、タイムリーに発信を行った。

また、『お知らせ・イベント情報』コーナーにおいて、KIGSから直接内容の更新ができるようにし、KIGSの企画展やその他のイベント情報をタイムリーに発信できるようになった。

2) 地域づくりネットワークの推進

(1) 北九州地域経済団体連携フォーラム事業の運営

北九州市内の経済団体による「北九州地域経済団体連携フォーラム(事務局:KPEC)」を編成し、各種の情報の共有と事業運営における連携、協働の環境づくりを実施した。

共催事業「世界に広がる北九州の明日を考える講演会」については、H27年度へ順延した。

(2) 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画

ビジターズ・インダストリーを民間主導で推進する「北九州市にぎわいづくり懇話会」(平成19年

に設置)において、企画調整委員会(委員長;小嶋理事長)へ参画し、にぎわいづくり認定事業において9事業を認定し支援を行った。

(3) 地域づくりネットワークへの参画

「地域づくりネットワーク福岡県協議会」の北九州ブロック代表幹事として、同協議会主催の研修会・交流会等に参画し、北九州市域の地域づくり団体との橋渡し役を果たした。

6. 北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業

平成22年4月から第2期指定管理者を受託し北九州市に提出した事業計画に基づき、平成26年度の事業運営に取り組んだ。

〈利用者目標・実績〉

入館者、企画展観覧者、教育普及参加者の数値目標はいずれも達成した。(開館以来8年連続でこの主要目標値をクリアして推移している。)

〈数値目標達成状況〉

項目	計画	実績	達成率	備考
入館者数	65,000人	65,177人	100.3%	10月に全国餃子祭り開催
企画展 観覧者数	20,100人	20,204人	100.5%	夏企画展が貢献
教育普及事業 参加者数	9,000人	11,955人	132.8%	学校等団体誘致活動強化に伴い、 来館者数が増加。

1) 教育普及に関する事業の企画、運営

当館の教育普及事業として、以下の各講座及び、独創的で多彩なイベントを企画、実施し、多くの参加者に好評であった。

(1) イノベーションフォーラムの開催

3Dプリンタに代表されるデジタル工作機械の急速な普及に伴い、ものづくりの環境は大きく変化してきている。そこで、これからの“デジタルものづくり”の進化の方向性や可能性をテーマとしてパネルディスカッションを開催した。

【開催日】 平成27年3月14日(土)

【基調講演】

テーマ：「近未来のものづくりとイノベーション」

講師：慶應義塾大学 環境情報学部 准教授 田中 浩也 氏

【パネルディスカッション】

[パネラー]

- ・田中 浩也氏(慶應義塾大学 環境情報学部 准教授)
- ・柳瀬 隆志氏(ファブラゴ太宰府代表、嘉穂無線株式会社 代表取締役副社長)
- ・三浦 政景氏(マルソー産業株式会社 代表取締役)
- ・山口 幸志氏(公益財団 九州ヒューマンメディア創造センター 課長)

[コーディネーター]

- ・市川 慶輔(北九州イノベーションギャラリー 教育普及・開発室長)

(2) 技術革新講座の開催 (4回)

・年間テーマ 「快適で安全な『住まい』のテクノロジー」

No	テーマ
1	安全、くつろぎの家づくり！～建築・構造・材料の最新テクノロジー
2	快適な暮らしへいざなう生活空間！～空調の最新テクノロジー～
3	癒しと健康を支える快適な水まわり！～キッチン、バス、トイレの最新テクノロジー～
4	安全・安心を支えるホームセキュリティ！～防犯・防災の最新テクノロジー～

(3) ものづくり講座の開催(計5回)

・大学2回・工業高校生2回・高校生1回対象に出前講演を実施

月日	内容	講師	参加数
6/23	出前講座(戸畑工業高等学校) 「ものづくり社会に向かう心構え/基本的マナー」	濱地由紀/学校法人麻生塾 麻生専門学校グループ教務部	165名
7/9	出前講座(小倉工業高等学校) 「安全作業の基本」	下田 喜五郎/株式会社安川電機 人事総務部労政・安全グループ	208名
7/24	出前講座(九州工業大学) 「機長席からのメッセージ」	上田 恒夫/元JALパイロット、 元シカゴ大学藤田哲也研究室特別研究員	74名
11/7	出前講座(九州工業大学飯塚キャンパス) 「白虎隊総長と竜巻博士」	金氏 顯/KIGS 館長	30名
2/5	出前講座(八幡高等学校) 「ものづくりにおける企業責任」	市川 慶輔/KIGS 教育普及開発室長	84名

計 561名

(4) デザイン講座の開催(計6回)

・文字のデザイン3回(シリーズ)、3D CAD 1回、小学生向けデザイン2回を実施

月日	内容	講師	参加数
6/29	「文字とデザイン タイポグラフィーの世界」①	大庭三紀/書家・タイポグラファー・デザイナー 蒼明/書家・筆文字デザイナー	60名
7/6	「文字とデザイン タイポグラフィーの世界」②	大庭三紀/書家・タイポグラファー・デザイナー 蒼明/書家・筆文字デザイナー	64名
7/13	「文字とデザイン タイポグラフィーの世界」③	大庭三紀/書家・タイポグラファー・デザイナー 蒼明/書家・筆文字デザイナー	63名
8/24	「プロと一緒にデザインするMY置き時計」 小学4-6年生 工房にてデザイン制作	北九州総合デザイナー協会	11名
2/27	「BIMで変革する建築デザインワークフロー」 ～デジタルデザインの可能性	佐藤 和孝/エーアンドエー株式会社 BIM・ソリューション企画推進課 課長	35名

計 226名

(5) その他

・市民講座、マイスター工房塾、調査研究報告会、ワークショップなどの事業を実施。

月日	内容	講師	参加数
6/27	「超大型铸造・鍛造品製造の技術革新650トン銅塊製造への挑戦」 映像上映&講演会	守中 康治/日本鑄鍛鋼株式会社顧問	71名
11/28	「オンリーワンを目指して 北九州エコタウン発連携と協働で創る循環システム」	松尾康志/楽しい株式会社	35名
3/17	「オンリーワンをめざして おしゃれなめがねとおもてなしで創る操業130年の絆」	吉田 清春/宝石・めがねのヨシダ代表取締役	48名

計 154名

月日	内容	講師(マイスター)	参加数
8/ 9	「北九州マイスターに学ぶ溶接技術・旋盤技術」	生野マイスター、川崎、市川	6名
8/ 21	「北九州マイスターに学ぶ溶接技術・旋盤技術」	生野マイスター、川崎、市川	8名
9/14	「北九州マイスターに学ぶ旋盤技術」高校教員	生野マイスター、川崎	5名
9/20	「市民イベントに出展する装飾品の土台の溶接と加工」	山田マイスター、有松マイスター	12名
9/21	「市民イベントに出展する装飾品の土台の溶接と加工」	有松マイスター、クローバーワン(補佐)	13名

計 44名

月日	内容	講師	参加数
8/22	「イオン交換樹脂技術の系統化調査」 三菱化学(株)黒崎事業所出前	草野裕志/国立科学博物館産業史資料情報センター元主任調査員	54名
8/23	「イオン交換樹脂技術の系統化調査」	草野裕志/国立科学博物館産業史資料情報センター元主任調査員	52名
10/23	「北九州におけるモータドライブ技術の歴史と発展」(株)安川電機入間事業所出前	山本 正治/山本技術士事務所代表	81名
11/15	「北九州における溶接技術の歴史と発展」	宮田守次/ミヤタハイメック品質技術研究所代表、 和田洋二/山九(株)技術・開発本部参与、 末松正典/(株)IHI専任技術者	41名
2/14	「北九州におけるモータドライブ技術の歴史と発展」	山本 正治 /北九州イノベーションギャラリー 特任研究員(技術士)	55名

計 283名

2) 調査研究に関する事業の企画、運営

産業技術の保存と次世代への継承を目的として、国立科学博物館、技術士会などと連携し、自主調査研究を行うとともに共同研究や委託研究を行った。

(1) 「北九州における表面処理技術の歴史と発展」の調査・研究

当館調査研究部門の監修のもと、公益社団法人日本技術士会九州本部の宮田守次氏、同・技術士会メンバーを含め特任研究員として委託して実施した。

・<タイトル： 北九州における表面処理技術の歴史と発展、103ページ>

(2) 「北九州における設備診断技術の歴史と発展」の調査・研究

当館調査研究部門の監修のもと、設備診断分野の第一人者 豊田利夫氏(元九州工業大学教授)をリーダーとした北九州内の設備診断技術に係る専門技術者に委託して実施した。

・<タイトル： 北九州における設備診断技術の歴史と発展、166 ページ>

(3) 「液晶ディスプレイ技術の系統化調査」の調査・研究

国立科学博物館(産業技術史資料情報センター)と共同研究にて我が国の技術の系統化調査研究の一環として実施した。

・<タイトル： 液晶ディスプレイ技術の系統化調査、101 ページ>

(4) 「マイスターによる効果的な技術指導 ～手溶接作業～」の調査・研究

当館調査研究部門及び工房長監修の下、北九州マイスター技能伝承倶楽部に委託して実施した。

・<タイトル： マイスターによる効果的な技術指導 ～手溶接作業、98ページ>

(5) 「山川健次郎と藤田哲也」の調査・研究

山川健次郎研究家、藤田哲也記念会および当館研究員にて実施し、調査資料を編纂した。

・<タイトル： 山川健次郎と藤田哲也、93ページ>

3) 企画展示に関する事業の企画、運営

当館のコンセプトであるイノベーションを切り口とした展示会、及び特別展を開催した。

企画展名		期間	開催 日数	観覧 者数	備考
春 企画展	せんいの チカラ展	3月21日～ 6月29日※	87 ※	3,243 ※	天然繊維、化学繊維のコーナーに分けて触れるもの、体験コーナーを充実させた。場内での実験デモも行った。
夏 企画展	サンダーバード博 in 北九州	7月12日～ 9月15日	63	10,627	特撮技術と共に様々な最先端技術や未来の可能性について、夢と希望を持ってわかりやすく観覧できる展示(仕立て)とした。
秋特別 企画展	山川健次郎と 藤田哲也展	9月27日～ 10月19日	19	1,281	地元ゆかりの2人のイノベーターについて、時系列で貴重な遺品や資料等を交え紹介した。
秋 企画展	メタルズ展 *いのちのたび 博物館と共同展示	11月1日～ 12月23日	53	2,132	様々な金属の造形について、新旧を交えて展示。地元作家のコーナーも設けた。様々なワークショップを2館で実施した。会期中無休。
冬 企画展	THE 世界一展	1月17日～ 3月22日	56	3,186	日本が世界に誇る様々な製造技術を身近なもの日ごろ目にできないものに分けて公開した。
夏 連動展	北九州の 先端技術展	7月12日～ 9月15日	63	2,286	FAISと連携し地元の先端技術を紹介する無料展示をラウンジにて行った。
冬 連動展	北九州 オンリーワン 企業展	1月17日～ 3月22日	56	4,791	認定企業14社の無料展示を多目的スペースにて行い、地元企業の頑張りを一般に広く公開した。
特別展	八幡製鐵所から 広がる北九州市の 近代化産業遺産	1月17日～ 開催中	開 催 中	開 催 中	北九州市の遺産を紹介する連続シリーズの第一弾として、世界遺産登録申請と呼応し開催中。市内各区ごとに150カ所の写真展示、紹介。
計			270 日	20,204	

※ 開館日数、観覧者数は全期間に亘る日数。ただし、計は26年度分のみ。
(特別展・連動展の観覧者数は計に含まず)

4) 映像・図書収集及び公開に関する事業の企画、運営

企画展事業と連動する図書等や、イノベーション、産業技術、デザインに関する映像の制作や図書を積極的に収集するとともに、迅速な公開に努め、利用者の研究や学習を情報面から支援した。

(1) 図書の購入

- ① 技術専門書、企画展及び各種講座に関連する書籍、定期刊行物などに分類し多分野に亘って広く購入した。また、新書コーナーを前面に出し、利用しやすい雰囲気づくりをし、一般の利用者が増えた。読書週間のキャンペーン企画も好評であった。
- ② 26年度図書の購入数:1,018冊(書籍713冊 雑誌305冊)

(2) 映像の製作

若松築港会社(現若築建設)によって明治に始まった洞海湾の浚渫物語と、洞海湾の第三の道として計画された新若戸道路の若戸トンネル建設物語を、新技術の適用を中心に、洞海湾「今昔物語」と題して2部構成で制作した(トータル32分)。

III. 法人運營業務

1. 会員募集と会員サービスの向上

1) 会員募集の強化

(1) 賛助会員制度の改正と会員データの整理の実施

会員募集要件を、『法人会費;10,000円/口として、3口を基準とする』とし、制度の改定と会員情報の再整備を行った。

(2) 新規会員募集の実施

会員情報の整理を行い、会員募集を実施した。

2) 会員サービス向上対策の実施

会員管理システムの更新により、夢寄金会員を含めた会員管理機能の機能向上と、会員データの整備を進めた。

また、会員への情報発信については、メール送信、ファックス送信等の情報発信機能を整備し、KIGS主催の展示会、フォーラムの案内や他団体からの講演会等の案内システムを確立した。

2. 寄付事業の推進

公益財団法人の制度環境を活用した寄付事業の編成に向けた検討を行い、広報のためのパンフレットの企画を行った。

3. 地域連携促進事業の推進

1) 「スポーツ振興チケット」事業

「KPECスポーツ振興チケット」を運用し、「ギラヴァンツ北九州」の応援を通じてまちづくりの心を醸成する「青少年の健全育成事業」を実施した。

(1) パンフレット配布枚数

・25.6万部(前年比:200%)

(2) 事業の成果

・チケットを使用した入場者数 当初からの累計 : 43,703人

項目	累計	1試合平均	構成比
全体入場者数 (前年比)	76,072人 (114%)	3,622人 (114%)	100%
チケットを使用した入場者数 (前年比)	13,127人 (265%)	656人 (265%)	18% (10ポイント増)

4. 新規指定管理事業の検討

平成27年度より始まる第3期KIGS指定管理に応募し、指定管理事業の決定を受けた。

5. 組織運営体制の強化

1) 事業管理体制の整備

KPEC事業については、「北九州地域産業人材育成フォーラム」事業および「北九州の企業人による小学校応援団」事業の会計管理方法をはじめとして、各種規程等の見直しを行い、事業の実態に即した管理・運営システムの構築を行った。

2) 事務局運営体制の強化

事務局運営体制の強化については、KIGSに「教育普及・開発室」を設置し、産業人材育成フォーラム事業(青少年育成プログラム)との連携強化を図るなど、KPECの事業環境を活用したKIGS事業の拡充のための体制整備を行った。

また、KIGS主催事業等の集客対策について、KPECの有する情報網を活用した広報体制を整備した。

6. 経営改善対策の実施

1) 資金運用計画による資金管理の実施

資金運用計画を策定し、保有資金の安全管理を行うと共に、利息収入の増加のための資金運用効率の向上対策を実施した。

2) 事業の運営システムの改善による合理化実施

KIGSの運営管理における運営システム等の総括を行い、業務改善対策を進めると共に、平成27年度以降の第3期指定管理の運営体制への導入を実施した。

また、事業の外部化による運営システムの制度的整備を行い、各事業の自律的運営体制移行のための制度整備を行った。

7. 会議等の開催

定款等に基づき、所定の会議を開催した。

1) 評議員選定委員会の開催

・第1回(書面開催):平成26年5月15日 ・第2回(書面開催):平成26年8月8日

2) 評議員会の開催(6月、3月)

・第1回定時:平成26年6月13日 ・第2回定時:平成27年3月11日

3) 理事会の開催(6月、3月)

・第1回定時:平成26年5月28日 ・第2回定時:平成27年2月25日

4) 執行役員会議の開催(月1回)

・第1回:平成26年5月8日 ・第2回:平成26年6月6日
・第3回:平成26年7月3日 ・第4回:平成26年8月19日
・第5回:平成26年9月17日 ・第6回:平成26年10月20日
・第7回:平成26年11月19日 ・第8回:平成26年12月24日
・第9回:平成27年1月19日 ・第10回:平成27年2月18日
・第11回:平成27年3月20日

事業報告の附属明細書

該当するものではありません。